



公益社団法人 岐阜県交響楽団

〒501-3133 岐阜市芥見南山3丁目7の10
TEL<058>244-0150 FAX 244-0151
ホームページ http://www.ktroad.ne.jp/~gikyoo/

出合いに感謝

公益社団法人岐阜県交響楽団

理事 中村 賢司



楽団員の皆様は、毎週土曜日に、芥見の練習場で練習に励んでおられ、演奏会の直前にはその頻度が増すとお聞きしています。本場に常日頃の、練習の賜物だと深く感じています。

献しておられます。

話は少し変わりますが、私が勤めている信用金庫は、金融機関であります。地方銀行等と少し違う所があります。

その相違点の第一は、組織形態です。地方銀行は、株式会社で営利法人（株主の利益が優先）ですが、信用金庫は会員の出資による協同組織の非営利法人（地域の繁栄が優先）です。

上場企業や大企業には、融資出来ません。

つまり、地元の方を中心に預金を預入していただき、地元の個人や中小企業の方に使っていたのが基本です。

地域に密着し地域の発展に寄与するという点では、岐阜県交響楽団の活動との類似点が非常に多く、より一層楽団の事が身近に感じられます。

私が公益社団法人岐阜県交響楽団との関わりを頂いたのは、前身の社団法人岐阜県交響楽団の理事として、平成22年6月13日に、岡本理事長様より、理事の委任状を頂いたのが始まりです。思えば早いもので5年の月日が経過しています。

音楽とまったく縁のなかつた私が、それも本格的なオーケストラの楽団と関われる様になるとは、晴天の霹靂でした。

しかし、何回かの定期演奏会や60周年記念の、マラー交響曲第二番「復活」等の演奏を聴かせていただき、その演奏の質の高さに毎回感動の連続でした。

岐阜県交響楽団の定款を拝見させていただくと、楽団の目的は「演奏活動等を通して岐阜県の芸術文化の普及と向上発展に寄与することを目的とする」。

そして、事業内容は、(1)定期演奏会及びその他の演奏会 (2) 学校及び社会教育団体等に対する演奏活動の推進 (3) 機関紙の発行等広報活動の充実等が記されています。

実際、平成27年度の事業計画でも、定期演奏会等4回、学校及び社会教育団体等に対する演奏活動6回等、非常に積極的な計画を毎年実施され、地域に密着した芸術文化の普及に貢

第二は、信用金庫は営業エリアが限定されているということ。私が勤める岐阜信用金庫のエリアは、岐阜県のみならず、濃・東濃地区及び愛知県の尾張・名古屋地区と限定されています。東京や大阪に支店を出すことはできません。

皆様からお預かりする預金は、全国どこに住んでおられる方からも、預入は可能です。ただ、住宅ローンとか事業性融資の貸出金については、先ほど述べた、営業エリアに住んでおられる方や、勤務する会社がエリア内にある方や企業の方が対象です。

第三は、融資が利用できる方は、個人と中小企業の方のみで、

理事に就任させていただき日々思う事は、地域発展向上のために頑張っていこうと、素晴らしい岐阜県交響楽団の役員の方や楽団員の方に出会えた事です。この出会いは、私にとつて非常に刺激になり、貴重な体験に感謝しています。微力ではございますが、皆様の活動に少しでも一緒できるような頑張っていきたいと思います。

最後になりましたが、岐阜県交響楽団の皆様が、「創立70周年」に向け、益々ご活躍されることをお祈り申し上げます。

岐阜信用金庫 常務理事

田尻真高先生 インタビュー

5月23日、田尻先生初めての来団練習の後、貴重なお時間をいただきながら、インタビューさせていただきました。3時間の充実のご指導をさせていただいてお疲れの中、終始とても気さくに楽しくお答えいただけたのと同時に、音楽についてお話しをされる時のお言葉一つ一つが大変印象的でした。

本日は貴重なお時間ありがとうございます。
させていただきます。

最初に、先生が音楽を始められるきっかけをお話いただけますか？

自分の実家がいわゆる音楽一家でした。母がピアノ教師で、父がオルガンを造る職人だったので、家庭には自然にクラシックがありました。テレビでオーケストラを聴いたりしながら、割りばしで指揮者の真似をしたりして(笑)、小さいころから自分は指揮者になるもんだと思っていました。

物心ついた時には姉がピアノを始め

ていましたし、強い動機があるというわけではないんですけど、家庭の中でごく自然に、自分も音楽をやるものだと思っていましたね。

もともと指揮の勉強がしくて東京に出たのですが、高校では指揮科がなかったため、高校は東京音大附属のピアノ科を出て、その後芸大の指揮科へ進みました。

高校のころには友達ジュニアオーケストラを振らせてもらったり、高校には弦楽もあつたので友達を集めて文化祭で指揮したりとかもしてました。

先生はドイツの大指揮者、クルト・マズアさんの講習会を受けていらっしゃいますね？

日本でクルト・マズアさんの講習会があつて、2回参加させていただきました。そして講習会では2回とも修了演奏会で指揮をさせていただくことが出来ました。

それがきっかけで去年、ドイツのラ

イプツイヒでマズアさんが講習会を開くときに、奨学生として、日本のメンデルズゾーン協会からお金をいただいて、1か月研修をさせていただきました。向こうのオーケストラ、ライプツイヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団を聴かせていただいたりとか、ベートーヴェン、メンデルズゾーンの足跡をたどったりとか貴重な経験をしましたが、何より彼(マズアさん)から紹介していただいたからこそ見ることに出来た貴重な資料をたくさん見ることが出来たのも、貴重な経験でした。

クルト・マズアさん、素晴らしい指揮者ですね！

もうすぐ90歳になられるマズアさんです。もう指揮はされていないということですが、いつまでも長く元気であっていただきたいです。本当に素晴らしい体験でした。

またゲヴァントハウス管弦楽団も素晴らしいオーケストラで、彼が前に立っただけでも音が変わりました。

今回の岐響のプログラムについて、一言お願いいたします。



今回は辻さんのチャイコフスキーが決まっていますので、並べたときに調性が合い、違和感のないブラームスの2番を選ばさせていただきました。またニコライに関しても大好きな曲でしたのでお話が来た時点で二つ返事でお受けいたしました。

ブラームスの2番は自分の大好きな曲で、本日の練習でもいろいろやってみましたが、すごくいろんなこだわりを持って作っていきな感じです。そういう意味でも、初めて一緒にオーケストラとして、自分がこういう指揮をする人間なんだ、っていうことをアピールするためにも、やっぱりすごくいい曲だと思い、この曲を選択しました。

ニコライはこの曲、底抜けに明るい曲じゃないですか。ああいうの大好きなんです。キャラクターを少しずつ作りながら、いろんなモチーフ、いろんな場面を作っていくみたいです。舞台がとても好きなので、この曲でいろんな場面を作りたいなと思いました。

岐響初来団の印象をお願いいたします。

本日の先生の指揮をみていますと、その楽しい場面が目にくっきりと広がっていく感じがしました！

すごくいろいろなアイデアをいただいたので、あれもやりたい、これもやりたい、となってしまうました。今日は前半少し時間をオーバーしてやりたいことをやっただけですけども、すごく、一緒にやりたいことがたくさんあるオーケストラだと思いました。ブラームもやりたいことがたくさんあって、みなさんにご協力いただきながら作り上げていきたいと思っています。

一方でブラームは純粋な交響曲ですね。

今までに思い出の公演などはありますか？

いわゆる標題音楽というものではないですけども、イメージだったりとか、一つ一つのテーマ、積み上げるためのテーマがものすごく明確になっている曲、テーマ、和声、そしてリズムと

やっぱ一番好きだったのは、自分の大学の同期を集めてやったオケの…
タジオケですね！
そうなんです！名前がちよっとあれなんですけどね(笑) 同級生集めて

あーでもない、こーでもないしながら作り上げてくシンフォニーが一番何よりも大好きなので、芸術祭でやった時の映像は今でも時々見ますね。ダッサイことやっつてんなあとか思いながら(笑) でもその時が自分の指揮者の原点だと思うので、そういうの大切にしていきたいですね。

音楽を離れたときの趣味などございますか？

アウトドアでは野球は大好きですね。小中学校と野球部でした。バイク乗るのも大好きだし、インドアならプラモデル作るのも好きだったり、ずーっと何かをやってます！遊ぶのは大好きでメリハリ付けながら頑張っています。

岐響への一言があれば是非お願いいたします！

僕のおーダーに対してそれを守ってほしい、というのではなく、オーケストラの弾きたい音楽も知りたいので、自分たちはこういう音楽を作っていくんだ、というのをお互い出しあいたい

インタビュー 畑 匡人

今後の活躍を楽しみにしています！本日はたくさんの方の貴重なお話し、誠にありがとうございました！

ヴァイオリニスト 辻彩奈さん
インタビュート

今回が約1年半ぶりの岐響との共演となる辻彩奈さん。このインタビュはその初来団日の練習直後、圧倒的な演奏で興奮覚めやらぬ時間に行わせていただきました。インタビュー中は、演奏中の鬼気迫る辻さんの姿からは考えられないくらい、常に笑いの絶えない辻さんの姿が印象的でした。

練習おつかれさまでした！素晴らしい演奏でした！今回の田尻先生との共演、いかがでしたか？

今日は田尻先生とは初めての顔合わせ、また岐響さんとは久しぶりに共演させていただきまして、1か月後の本番が楽しみです。

田尻先生は高校の先輩でもあるんです。同じ岐阜県出身ということもあって、頑張らなきゃなと思いました。今日は最初から気持ちよく（ソロに）

付けていただきました。

今回、辻さんは数あるコンチェルトからチャイコフスキーを選ばれました。

チャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲は、ロシアの雄大な風景が見えるようなすぐく大きな曲で好きな曲です。祖父がハイフェッツのこの曲をレコードで聴いていて、小さいころから聴いていたこともあって、すぐく憧れの曲でした。そんな大好きな曲なので、是非地元でやらせていただけたら、と思っていました。

この曲はこれまでも弾かれていますか？

コンクールでは今までにも弾いたことがあるんですが、コンサートで弾くのはこれが2回目ですね。

辻さんにとってこの曲の魅力はどんなところにありますか？

聴いていても弾いていても、すごく幸せな気持ちになれるっていうか、例えば第一楽章の主題など、あつたかみのある曲だなと思います。それにロシアの広大な風景の見える大きな曲です。

この曲を演奏するにあたってのお話を聞かせていただけますか？

チャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲は誰もが知っている曲ということもあり、お客様に聴いていただくことを思うと特に緊張します。この曲を演奏することはほんとに難しいです。例えば第一楽章最初の主題など、そんなに超絶技巧というわけではないのですが、シンブルで何度も出てくる美しいメロディーをどうやって表現していくか、ずっと同じじやつまらないし、かといってテクニクで見せていくのとも違うし…

モーツァルトやバッハでもそうなんですけど、シンブルが故の難しさはありますね。もちろん技巧的に難しいところもたくさんあります。

それに、この曲にはいろんな表現の仕方があると思います。いろんな弾き方があるし、いろんな聴き方もありますよね。例えばかつてのハイフェッツから最近では神尾真由子さんまで。小さいころはハイフェッツの演奏を聴いて憧れて、最近では神尾さんの演奏もよく聴きますね。



この曲は初演当時「演奏不可能」なんて言われてましたね。

ロシア広大な風土のような、あんな大きな曲を、ロシアのあんな大きな男の人(ヴァイオリニスト)が弾いている演奏のことを思うと、やっぱりすごい曲！腕の太さも違うし、指の太さも違うし…。この曲のフレーズには、重み、ずっしりとした感覚があるんじゃないですか。そういう感じを表現したり、ビブラート一つとっても難しいですね。もっとロシアの広い風土を直接見たりするとわかってくるのかな？
(笑)

前回のカルメン幻想曲から1年半が経ちました。勿論辻さんは成長しておみえなのですが、失礼ながら、辻さん自身の中で大きく変化した部分はございますか？

コンチェルト一曲を弾ききるのに、体力と集中力は以前よりも付いてきたかなと思います。前はこのコンチェルト全曲弾くとヘトヘトだったんですよ。だいぶ今は弾き終わってもヘトヘトにはならなくなってきました。



▲練習中の指揮・田尻真高さんとヴァイオリン・辻彩奈さん

今後の抱負などございましたらお聞かせ下さい。

今は練習していても漠然と練習していたりすることもありますが、もっと作曲家が曲に込めた意図などを表現して、それをお客様に伝えられるような人になりたいと思います。

また、様々なヴァイオリニストがいる中で、強く自分を表現してくれる人が好きなので、そういう表現のためにも留学等したりして、テクニックも表現力ももっともっと身に付けて行きたいと思います。

レパートリーでいうと、コンチェルトはもっと様々な曲を勉強したいなと思いますし、ヴァイオリン・ソナタなど室内楽にも積極的に勉強していきたいと思っています。

本日はお疲れのところ、ありがとうございました！

インタビュー 畑 匠人

「岐響と私」

：事務局長を終えて

副理事長 神原光夫

17年間もの長きに渡り、岐阜県交響楽団事務局長を務めあげられ、この6月を持って勇退されます神原光夫さん。コンサートマスターも務められ、まさに、現在の岐響をここまで作り上げてこられた張本人でございます。岐響の歴史に対し、わずかな紙面の中で、大いに語っていただきました。

持ち直しました。楽団の存続を願う有志が、当時すでにプロなどで活動していたかつての岐響団員を呼び戻し、楽団の再建を図りました。それに伴って新しい団員も増え、楽団は息を吹き返しました。公演を重ねるうちに、支援の輪も増えていきました。

昭和二十八年（一九五三）戦後間もなく岐響の創設期は、まだまだ戦後復興途上の時代で、オーケストラに必要な楽器も少なく、弦楽器にフルートくらいの岐阜大学の学生を中心として一般募集の方々に混じってスタートしました。

昭和五〇年（一九七五）に社団法人化と同時に楽団名を「社団法人岐阜県交響楽団」としました。県や市、企業をはじめ、会員の方々に精神面・経済面で支えられてきた岐響は、さらに岡本理事長、辻副理事長の熱意のもと、社会的にも責任ある団体へ発展するために、新たな一歩を踏み出して、今日の発展をみる事ができました。さらに平成二十三年（二〇一一）に

私が生涯を通して愛し続ける岐響との出会いは、高校時代の青春でした。それから岐響はいろいろと苦難の道を進むことになりました。

は、これまでの公益活動が認められて、公益社団法人として認定され、益々社会的信用を得られ、責任ある岐響へと発展してきました。

私は勉強のため上京したので、その十年間位留守でしたが、岐響の先輩諸氏の熱意と努力で、消えかけた火を

平成十年（一九九八）十二月二十三日、ついに永年の夢だった自前の練習

場が竣工しました。本当にすばらしい施設です。日本中探してもこのような自前の練習場はないのです。あちこちから取材や見学に來られました。この練習場の次の年に開催した「国民文化祭ぎふ99」オーケストラの祭典のために意義ある練習場となりました。この練習場は地域の音楽文化の拠点として、岐響がさらなるレベルアップをはかることを使命としました。この練習場のお蔭で、団員はこれまで次々と仮住まいを移動することもなくなり、楽器の移動もなく落ち着いた環境で練習に熱も入り、演奏力の向上に多大な効果を生みました。

きたのです。

岡本理事長さんは、「もつとよい演奏ができるように」と、いつも優しい眼差しで団員を激励して頂き、団員も良い演奏にレベルアップすることが、ご支援いただく皆さん方への御恩返しとしてがんばってきています。

平成十六年（二〇〇四）は、岐響創立五十周年記念「東京公演（サントリールホール）」でした。サントリールホールは素晴らしいホールでした。今ではそれ以上の響きを求めているようなホールができていますが、クラシック音楽のメッカとしてのサントリールホールでの公演は、我々アマオケとしての夢でもありました。その目標は次第に我々の絆となり、一人ひとりの夢となつてそれぞれを奮い立たせました。

二大公演と絆
岐響は、恵まれた環境を活かし五年毎に大きな目標を掲げて、その目標を乗り越えて参りました。事実ちょうど柳の枝に蛙が飛びつくように、目標に向かってそのハードルを乗り越えて

長はじめ岐響役員のご協力と努力を経て東京公演が実現。岐響の創立50周年を記念したその公演は、多くの観客の方々が駆けつけて、大ホールを埋め尽くしたのです。岐阜の文化及び経済の活性化を図りたいとの思いを込め、全て岐響のオリジナル曲の交響詩「長良川」や交響曲「岐阜」を演奏し、それを聴いた東京在住の岐阜県民の方々が目頭を押さえブラボーを連発し、満場総立ちの大拍手の感動的な公演となり、会場フロントで辻副理事長さんとともに感激したことは、忘れ得ぬ思い出となっています。

を乗り越えて参りました。事実ちょうど柳の枝に蛙が飛びつくように、目標に向かってそのハードルを乗り越えて

終演後、その祝賀の席で勢いを駆つて、誰ともなく「次は世界一のウイーン

だー」
その声は瞬く間に広がり、新たな夢となってきました。

平成二十一年(二〇〇九)は創立五十五周年記念「ウイーン公演(楽友協会黄金ホール)」でした。

五十五周年記念ウイーン公演では、海外でもありその準備に大変な苦勞をしました。

ウイーン在住者から「日本のオーケストラではお客さんが入らない」といわれ、岡本理事長や辻副理事長は「きつと満席にしてみせる」と、最大限の努力を払って頂けたことに団員一同感謝しています。岐阜市や文化団体も応援ツアーを組んで来ていただきました。また、岐阜市とウイーン市マイドリング区姉妹提携十五周年記念事業ともなり、現地の方々に大挙してご来場いただき、満席となり大成功でした。

東京公演とウイーン公演の大成功は、ともに情熱を注ぎ、岐響の演奏方向上に努めていただいた、名誉指揮者の小松一彦氏なしではありえませんでした。ウイーン公演の翌年三月、氏は脳幹出血で倒れられ、そのまま入院療養生活となり、やがてご逝去されたのです。壮絶な六十五歳の人生は、妥協

を許さない百二十%生き抜かれた全力投球の生涯でした。

地域とともに愛される岐響を

日ごろから、ご近所の方々も私ども岐阜県交響楽団に好意をもつて接して頂き、ウイーンから帰って練習場に来ると拍手で迎えていただき感激でした。

感謝公演ということで、毎年一回練習場において「地域のためのコンサート」を開催し、オーケストラ音楽を楽しんでいただいています。練習場の広い敷地に雑草が生えても「よい環境づくり」といつて、近隣の方が清掃や草刈りに率先して奉仕活動をしていただき感激です。私たちは地域に根ざした活動の結果、岐響は郷土の誇りとして愛されているのだと思つて、ありがたく感謝しています。

岐阜市青年会議所主催で開催した「三千人の第九合唱」や、一昨年開催の創立六十周年記念「復活」公演でも合唱団の編成では、地域の多数の皆さま方にご協力いただき、地域で活動する喜びを益々感じております。岐響の創立六十周年には、団員の総意で、これまで楽団を支えていただいた

地域の方々には感謝の気持ちを伝え、六十年の間に残り二か所の地域に訪問公演を実施することで、全県限なく制覇となるために、その地域に感謝公演として訪問しました。

また記念公演としては、大曲のマーラー交響曲第二番「復活」を演奏。地域の多くの方々で編成した合唱の絆で、東日本の復興に頑張ろうという意味を込め、感動的な演奏会となりました。

感謝

平成十年(一九九八)九月、事務局長として中野前事務局長さんのご逝去の後を引き継ぐことになりました。これまでのプレイヤーと事務局長の両方はできません。事務局長の任務を果たすべく自分の演奏は二の次にして、良い環境のもとで団員の方々に練習をしてほしいことや、地域との一体となった愛される岐響の発展のために徹しました。

今日まで十七年間務めさせていただき、常にいろいろな面でご指導いただいた理事長、副理事長さんを始め、団員の皆さま方の支えがあつてこそ感謝に堪えません。

定期演奏会のたびに、フロントに立つてお客様に感謝の気持ちでお送りしていますが、皆さんが笑顔で「良かったよ、ありがとう」と言っていただけることができて、事務局長冥利につきます。演奏会の終曲後の「ブラボー」とともにスタンディングオベーションが、鳴り止まぬ拍手は、心底から良かったと身震いし感動した想い出は終生わすれません。

事務局長を離任してからも、団員のすばらしい仲間とともに、地域と一体になつて岐阜の音楽文化発展に、更なる貢献をしていきたいと思つています。今後とも、岐響をよろしくお願いいたします。



今年3月に行われたファミリーコンサートには、沢山のお客様に来ていただき、また様々な応援のご意見をいただくことも出来ました。誠にありがとうございました。今回はその中から1名のお客様のご意見をご紹介します。

ブラボー「15岐響ファミリーコンサート」岐響が大好き！

私にとって、今年ファミリーコンサートは、マーラーの『復活』記念演奏会以来の演奏会でした。「誰が好き？チャイコフスキー」と、ユーモア溢れるタイトルでの今回のファミリーコンサート。大いに楽しく拝聴しました。これまでの「ファミ・コン」とはやや趣が異なり、チャイコフスキーの名曲だけを「いいとこ取り」的に並べた構成がとても新鮮でした。

ジュニアの皆さんとシニアの皆様との心温まる共演。恒例の楽しい指揮者コーナー。情熱的な新進気鋭の塚田さんの快刀乱麻のピアノにオケの皆さんが必死な形相で併せていったスリリングなピアノ協奏曲NO.1。オケの皆様のテンションが客席に伝わるほど高揚してきた後半部の楽曲。特に『1812年』のクライマックスでは、超弩級の打楽器群と二階席最後部で高らかに響くトランペット群とのかけ合いが最高の盛り上がりを演出しました。今回も岐響の面目躍如の素晴らしい演奏会でした。

また、今や若き巨匠的な風貌さえ感じさせる高谷さんと、ウイットに富んだ松本さんとの心温まるかけ合いトークもすっかりおなじみとなりました。特に今回は「ロシアもの」であったせいか、ご当地ゆかりの高谷さんの指導力が演奏会の随所に発揮されていたように映りました。(来年の「ファミ・コン」に高谷さんのご出演予定がないのは、寂しいですね。)

また、パンフレット裏面の今年の演奏会予定に、「実演芸術アウトリーチ事業」と銘打った巡回演奏会が新たに加わっていることに気がつきました。岐響にとって、いよいよ新時代の岐阜版「ここに泉あり」のスタート?と解釈しました。

今後とも岐響の皆様が一丸となって、更なる地域文化の発展に音楽を通してご尽力いただけることを地域住民として心より期待申し上げながら今回の報告を終わります。次回もより深化した岐響の演奏会を楽しみにしています。お疲れ様でした。

2015年3月27日 お客様のアンケートより



▲ファミリーコンサート、指揮者コーナーにて(指揮・高谷光信さん)